

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
相談援助の基盤と専門職 I Professionals and Basis of Social Work I		1年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択	(社会福祉士国家試験受験資格取得必修)	特になし
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
相談援助演習など社会福祉士国家資格取得に必要な科目や社会福祉学に関連する科目				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
社会福祉士受験資格指定科目				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
幡山久美子	本館1階 非常勤講師室	木曜日 10:00~16:00		授業中に指示します
授業の概要				
複雑化していく福祉ニーズに対応するため、相談援助に関連する基本的な理念、概念、定義、意義について歴史的な背景を含めて学ぶ。さらに相談援助の専門職として求められる姿勢や態度等を考える。				
授業の目標				
①社会福祉士の役割と意義について理解し、説明することができるようにする。 ②ソーシャルワークの発展過程について理解し、説明することができるようにする。 ③相談援助の理念について理解し、説明することができるようにする。 ④相談援助専門職の倫理とはどのようなものか、考えを深めることができるようにする。				
授業の方法				
講義形式				
学習の成果 (学習成果)				
①相談援助に必要な「臨床」的態度や姿勢とはどのようなものかを理解し、説明することができるようになる。 ②臨床的態度や姿勢を学ぶ意義を理解し、説明することができるようになる。 ③利用者を主体とした相談援助の基盤を身につけることができるようになる。 ④相談援助の専門職としてやらなければならないこと、やってはいけないことを理解し、説明することができるようになる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス・社会福祉士の役割と意義			
第2回目	ソーシャルワークの歴史 (1) 歴史を学ぶ意義、ソーシャルワークの草創期			
第3回目	ソーシャルワークの歴史 (2) アメリカにおけるソーシャルワークのはじまり			
第4回目	ソーシャルワークの歴史 (3) アメリカにおけるソーシャルワークの展開			
第5回目	ソーシャルワークの歴史 (4) 日本におけるソーシャルワークのはじまり			
第6回目	相談援助と社会資源			

第7回目	相談援助の構造と機能	
第8回目	相談援助と臨床 (1) 方法としての臨床	
第9回目	相談援助と臨床 (2) 臨床的態度と現実的公開性	
第10回目	相談援助と臨床 (3) 共同主観的人間理解	
第11回目	社会福祉の理念と相談援助の理念	
第12回目	利用者主体の相談援助	
第13回目	相談援助の専門職における倫理	
第14回目	社会福祉と相談援助の関係性、臨床的な相談援助 (1) まとめと試験	
第15回目	社会福祉と相談援助の関係性、臨床的な相談援助 (2) 試験の解説と振り返り	
成績評価の方法と基準		
	評価の領域	割合
授業参加態度		20%
レポート		
調査報告書		
小テスト		
試験		80%
発表内容 (態度含む)		
その他		
教科書と参考図書		
教科書：福祉臨床シリーズ編集委員会編、『相談援助の基盤と専門職 (第2版)』、弘文堂。 適宜資料の配布および参考図書の紹介をする。		
履修上の留意点・ルール		
目的意識・課題意識を明確にして授業に臨むこと。 遅刻厳禁。居眠り・私語・携帯端末の不適切な使用について厳重に注意する。飲食禁止。		